

|       | 牧師 山本護                          | 司式 平尾文子 | 奏楽 花曲琴音          |
|-------|---------------------------------|---------|------------------|
| 前 奏   | 黙想                              | 祈 禱     |                  |
| 讃 美 歌 | 56 なぬかのたびじ                      | 讃 美 歌   | 531 ころのおごとに      |
| 祈 禱   |                                 | 献 金     |                  |
| 信仰告白  | 使徒信条 教団戦責告白                     | 讃 詠     | 547 いまささぐるそなえものを |
| 聖 書   | ヨエル書 4:10<br>マタイによる福音書 10:34~36 | 黙 禱     |                  |
| 讃 美 歌 | 450 わかき日のみちを                    | 主の祈り    | 564              |
| 説 教   | 『 剣(つるぎ)と平和 』                   | 頌 栄     | 540 みめぐみあふるる     |
|       |                                 | 祝 禱     | 後 奏              |

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ(マタイ 10:34)」。なんと恐ろしいことを言うのか。山に登った時には(5:1)「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる(5:9)」と厳かに告げたのに、山を下りたイエス(8:1)には翻弄させられる。私も思いつきで発言するが、さすがに反戦を訴えた舌で軍備増強はやもうえないとは言えない。イエスは矛盾しているわけではない。「平和=反戦」「剣=兵器」という読み込みが軽率なのだ。それではいったい、「剣をもたらすために来た(10:24)」とはどういう意味なのか。

続く言葉にも混乱させられる。「わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘をその母に、嫁をしゅうとめに。こうして自分の家族の者が敵となる(10:35~36)」。同僚や友人と仲たがいでいても家族だけは最後まで味方、と思いたい向きには不快な聖句だろう。剣と同じく、謎めいている。

「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く～心の思いや考えを見分けることができる(ヘブライ 4:12)」。だから「すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されている。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばならない(4:13)」。「剣」はこうして、「その人の」の可能性を、人間の支配から神の御手に引き戻す。父が人を支配し、母が娘を支配し、しゅうとめが嫁を支配する(マタイ 10:35)、助け合いながら抑圧する家族(10:36)。『家族という病(中井久夫)』。

意味は皆目分からずとも「わたしは剣をもたらすために来た(10:34)」「わたしは敵対させるために来た(10:35)」という言葉を噛みしめると、ふいに涼しげな風が通った気がする。この微妙な感じをへたに説明すると、豆腐のように崩れる。囲いから出る時、人は傷つくが、神の自由は清々しい。

「もたらさせる剣(10:34)」とは何であろうか。一つには福音の告知。「そのときからイエスは〔悔い改めよ、神の国は近づいた〕と言って、宣べ伝え始められた(4:17)」。神の御心を体現した言葉や愛のふるまいは、息苦しい「家族形態=社会秩序」をゆさぶり、イエスは反逆分子として殺された。二つ目はより根本的で、イエス自身が「十字架という剣」そのものになられた。「十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分(神)と和解させられた(コロサイ 1:20)」。真の平和とは、抑圧を伴う規範ではなく、各々が神と和解することなのだ。

「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない(イザヤ 2:4, 箴 4:3)」。終りの日の約束として(箴 4:1)、キリスト者は主の平和の到来を待ちのぞむ。待ちながら為すことがある。「お前たちの鋤を剣に、鎌を槍に打ち直せ。弱い者も、わたしは勇士だと言え(ヨエル 4:10)」。「剣を鋤に、槍を鎌に」なら納得できるが、「鋤を剣に、鎌を槍に」は受け入れがたい。だが「弱い者も、わたしは勇士だと言え」に注目しよう。農民や零細民が、強者に支配されてはならない。「人、娘、嫁(マタイ 10:35)」のように、「剣」によって自由と自分の「言葉」を得る。

キリストは剣として十字架で死なれ、平和の種となった(コロサイ 1:20)。私たちは「剣である平和の種」を蒔く。教会は波風を治める働きをするのではなく、波風を立てる「剣」の御言葉を宣べ伝える。

|               |              |                    |
|---------------|--------------|--------------------|
| 剣を鋤に打ち直す時がある  | 鋤を剣に打ち直す時がある | 今は どちらの時か 私に託されている |
| 聖霊の風を受け       | 農民となり        | 勇士となる              |
| それらはいつでも打ち直せる | 兼業勇士         | 兼業農民か              |

|  |
|--|
| 日本の戦争を想起する 8月、毎年この時期に礼拝の中で日本基督教団議長名による「戦責告白」を唱えています。8/16(水)1:00~3:00 教会カフェ、8/19(土)1:30~3:30 メディカル・カフェ開催。 |
|--|

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。